

後記

○今号は、専任教員による研究論文三本によって構成される。

特筆すべきは、専任教員と学部四年生二名の共著による論文が掲載されたことであろう。ゼミで行なった方言調査の結果をまとめたものである。あまり知られていないことだが、本紀要は、学生のみなさんでも投稿可能である。投稿することは難しいかもしれないが、これから卒業論文を執筆される学生のみなさんには、過去のものも含めて、この紀要に掲載された論文を、目指すべき一つの手本として意識してほしい。また、自分が所属するゼミの教員の論文ぐらいいは読んでみてほしい。内容はもちろん、その形式や言葉遣いにも、学ぶところがあるはずである。

○本年度の国文学大会は、松井健児先生によるご講演と、歌人の松平盟子先生によるご講演の二本立てであった。松井先生の御話は、流石に分かりやすく、門外漢の私にも、源氏物語の奥深さと面白さが伝わるご講演であった。豊富な画像と、松井先生の柔らかな口調に魅了された学生も多かったことだろう。松平先生のお話は、生誕百四十年を迎えた与謝野晶子にちなんだものであったが、先生の熱量に終始圧倒されてし

まった。学生からも「晶子のイメージがガラリと変わった」という感想が聞かれ、大いに刺激になったに違いない。

(平子)

編集委員 倉田 谷子

高山 大毅

平子 達也